Title	WHO研究協力センター活動報告
Citation	北海道大学環境健康科学研究教育センター主催 WHO環境化学物質による健康障害の予防に関する研究協力センター指定3周年記念 市民講演会 「SDGsを考える ~暮らし・教育・健康~」2018年10月17日(水)開催 (北海道大学百年記念会館大会議室)
Issue Date	2018-10-17
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/71696
Туре	lecture
File Information	katsudohokoku.pdf



WHO 研究協力センター 活動報告

- WHOCC for Environmental Health and Prevention of Chemical Hazards (JPN-91) 環境化学物質による健康障害の予防に関するWHOCC
- WCCセンター長:岸 玲子(特別招へい教授)
- 施設:北海道大学環境健康科学研究教育センター
- 認証日: 2015年4月22日







次期(2019年1月~)WHO西太平洋地域事務局長に 葛西健氏(現WHO西太平洋事務局事業統括部長)が選出!





WHO Collaborating Centre (WHO研究協力センター)



- WHOCCは、保健分野の研究を通じてWHOの活動を支える施設
- ・ 世界には約700のWHOCC
- WPRO地域には約175施設
- 特に、WPRO地域における
 Sustainable Development
 Goals (SDGs)の達成は
 WHOCCとしての重要なミッションの一つ



TOR (Term of Reference) 1

化学物質ばく露によるハザードや健康障害予防に関する調査および研究能力の向上においてWHOを支援

• TOR 2

化学物質ばく露と健康に関する研究成果や科学的知見をガイドライン、マニュアル、あるいは研修モジュール等のWHO 資料に生かす

TOR 3

特に脆弱な人々の化学物質ばく露によるハザードや健康障害予防に関する研修や知識向上にむけてWHOを支援

活動1:知識や能力の向上

① 世界各国からの研究者や大学院生の受け入れ (エチオピア、台湾、タイ、フィリピンなど)

② 国際会議での講演、シンポジウムの主催による啓発活動 (2017年は本学人獣共通感染症リサーチセンターと国際シンポジウムを開催









活動2:ネットワークの構築、参画

- ① WHO関連会議への参加
 - 2018年4月 第2回WCC連携会議(東京)
 - 2018年11月 The Second Regional Forum of WHO CCs in Western Pacific (ベトナム ホーチミン)
- ② WHOCC Children's Environmental Health Network: WHO本部に加えて、世界各国のWHOCCが参画、電話会議等で情報共有

③ Birth Cohort Consortium of Asia: アジアの出生コーホートコンソーシアム、現在16か国31コホートが参加





活動3:科学的知見をWHOの活動に生かす-1

化学物質と健康リスクに関するリーフレットを作成

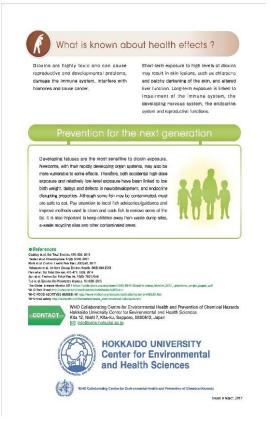
WHO WPROと協働で特にアジアに着目したデータ (1冊目は Dioxins and Our Health)

http://www.wpro.who.int/health environment/en/









活動 3: 科学的知見をWHOの活動に生かす-2

WHO研修モジュール「WHO training package for the health sector」のアップデートと和訳

- 環境と子どもの健康に関する医療従事者向けの研修モジュール
- 全部で30のモジュールがWHOから提供されている
- 3課題(①なぜこども? ②子どもは小さな大人ではない、③子どもと 化学物質)を和訳済み、今後随時追加予定 www.cehs.hokudai.ac.jp/whocc/whomaterial/

Children and chemicals

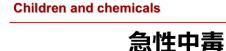
ACUTE POISONINGS

According to Poisons Centres:

- Up to 50% to 70% of the calls are about children exposed to chemicals or actually poisoned
- Number of poisoning cases is underestimated
- Cases of exposure are mostly acute and accidental
- ❖ The majority are between 1 & 4 years old
- Boys are more affected
- ❖ The outcome is usually favourable
- Mortality is usually low



U.S. Environmental Protection Agency



毒物センターによると;

- かかってくる電話の50%~70%までが、化学薬品に暴露された、または実際中毒を起こしたというものである。
- ・中毒の件数は過小評価されている。
- 暴露のケースのほとんどは、急性かつ偶発的なものである。
- **、大多数は1~4歳である。**
- **,男の子の方が影響を受けやすい。**
- 予後は通常良好である。
- 。死亡率は通常低い。



U.S. Environmental Protection Agency



活動 4: 研修やトレーニングの実施

- ・ 環境化学物質と健康に関するソウル大学との共同講義
- ・「社会と健康」ディプロマプログラムの提供











SUSTAINABLE GOALS DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



UN(国連)はMillennium Development Goals (2000) ⇒Sustainable DGs に改訂(2015) 2030年までに17の領域169の項目が達成目標 ¹¹



WHOCCの活動により複数の達成目標を同時に解決!

化学物質ばく露によるハザードや健康障害予防に関する

- ① 知識・研究技術の向上
- ② 科学的知見の提供
- ③ 研修やトレーニング



ご清聴ありがとうございました

